ビキニ被災支援　　室戸の会ニュース　2025 年 02 月 05 日　　№65

発行　ビキニ被災を支援する室戸の会　　太平洋核被災支援センター

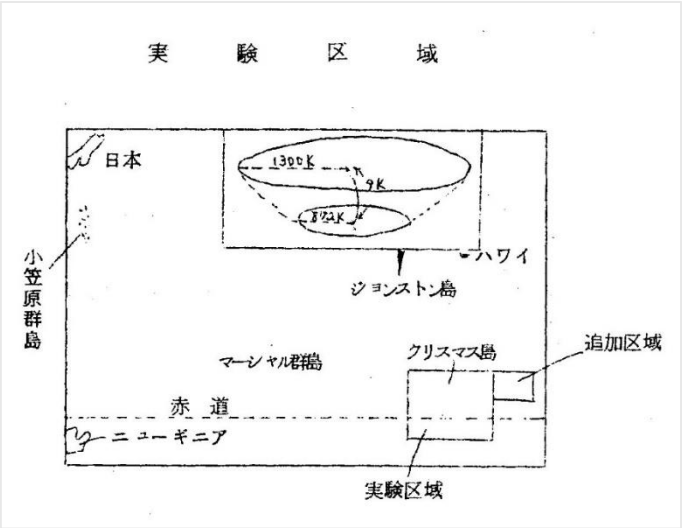
連絡先　事務局　宿毛市 088-066-1763（山下）　室戸の会 0887-35-8725（濵田）

1962 年　クリスマス島と ジョンストン島の核実験のラッシュに遭遇

1962 年にはアメリカは「ドミニク作戦」という名で 105 回もの核実験を行っています。そのうち太平洋上で行ったものを「ドミニク作戦Ⅰ」といい、ネバダで行ったものを「ドミニク作戦Ⅱ」と呼んでいます。

ソ連は 1958 年から核実験を行っていませんでしたが、キューバでの米ソの対立をめぐり、1961 年から核実験を開始しました。それに対してアメリカが優位性を持つために行った実験です。105 回中 40 回はクリスマス島やジョンストン島で行われています。

その年の 4 月 6 日にアメリカはクリスマス島とジョンストン島で水爆実験を行うための実験区域を発表しています。4 月 10 日にはその追加分も発表しています。その実験区域は北緯 6 度 50 分、南緯 3 度 10 分、西経 149 度 20 分、西経 162 度 40 分の経緯線で囲まれた区域で、南北に 960 ㎞、東西 1280 ㎞に及ぶものです。



このことについて、室戸岬船員同志会は、①実験は、ミサイル迎撃用ミサイルの実験が行われるものとみられる。②実際に実験を行う前には、さらに発表すると言っている。と注釈を入れています。（「遠洋」№81　1962.4.1）

この実験区域でいつどのような実験が行われたのか、その正確な資料を持ち合わせていませんが、そのうちの一部だろうと思われるものが、「遠洋」№85 に次のような記事となっています。

「どこへ飛んでゆくのかわからない－アメリカのミサイル」

6 月 4 日と 20 日（日本時間）の二回にわたってアメリカはジョンストン島でミサイルによる超高空核実験を試みたが、二回とも誘導装置の故障で定められた方向に飛ばず、爆発寸前にミサイル事墓石、核弾頭

は破片となってジョンストン近海の海中に落ちた。海中に落ちた核物質がどんな影響を与えるものなのかは全然発表されていないが、外電の伝えるところによると海に落ちた核弾頭の破片は海水の放射能汚染を危険な水準にする。・・・　・・・と伝えられている。世界の科学者から強い反対運動が起こっている。超高空の核実験が宇宙空間をかき混ぜる危険な実験であることを百も承知でアメリカはついに超高空実験を強行した。

「ジョンストン島上空でメガトン級爆発」

7 月 8 日、ソープスターは高度 320 キロの上空で核爆発、この爆発は 1200 ㎞離れたハワイでも閃光が見られた。また、ジョンストン島からよ 1500 マイル（約 2700 ㎞）離れた海上を日本に向け帰港中の第 11 新南丸もこの爆発を見たと報告してきている。

「米代表も非難声明」

この爆発が行われた 8 日、モスクワでは「全般的軍縮と平和のための世界大会」が 120 余か国の代表を集めて開かれていた。この平和大会に参加した米国代表団（100 人余）はこの報道を聞くと同時に、「我々米代表団全員一致の意志としてアメリカの超高空核爆発実験を非難することを正式に声明する」とガドナー団長が登壇して声明した。（以下略）　※「遠洋」№85（1962 年 7 月 1 日　67 頁から 68 頁。）

この記事にある 6 月 4 日と 20 日の実験は、前者が「ブルーギル」後者は「スターフィッシュ」と思われる。そして 7 月 8 日の実験は「スターフィッシュプライム」というもので高度 400 キロメートルの外気圏で行われたものであり、1.4Mt の規模のものだとされています。※ウィキペディア「ドミニク作戦」（2023.10.22 更新　2024.02.05 閲覧）

第 11 新南丸の船員が、浦賀に入港した時に船員が同志会の事務所に来て話してくれた内容として、次のような記事も掲載されています。

「生きた心地のしない核実験」 第 11 新南丸　〇〇

新南丸は、ジョンストン島から 1500 マイル本土よりのところを帰港中、7 月 8 日の米国のミサイルによる超高空核実験を目撃した。閃光と同時にきのこ雲が広がり 5.6 分強力な稲妻のような光が空を覆った。空は真っ赤な夕焼けのようになり、まるで高知市が空襲で焼けた時、須崎から見た時以上だった。

みんな恐ろしくなり、中にはガタガタと震えるものもあった。あんなことを繰り返されるようだったら、沖へ出るのが恐ろしくなる。（「遠洋」№85　1962.7.1　53 頁）

1962 年の核実験のラッシュの中に船員たちはいた

1962 年 4 月にアメリカがクリスマス島とジョンストン島での核実験区域の発表したことに対して、室戸岬船員同志会は出漁船に対して次のような注意文書を出しています。その文章が、当時の船員さんたちの置かれていた状況を教えてくれます。

基本的には、出漁することは前提としていますが、その時には危険予知のために「サーベイメーターやポケ

ット検知器」を持っていくように呼び掛けています。そして、降灰などの降下物は危険であるので、雨などで体を洗うことは避けること、身体や漁獲物、船体などが汚染した場合には直ちに海水で洗い流すことなどの注意が書かれています。つまり、降灰などの危険な状況があるということが予測されているのです。

しかしながら全体的には、その危険の認識の程度は、直接触れなければ大丈夫という感じがあるように感じます。このことは、国や厚生省が 1954 年の第五福竜丸のことや、水揚げしたマグロから放射性物質が検出されているにもかかわらず、注意喚起や規制、補償をきちんとしていないことの問題性を感じます。さらに、逆に実験をする側から見るならば、危険区域を設けていれば問題ないというアメリカ側の意識にも怒りを感じます。

この結果、マグロ船の船員は、あたかも核実験の嵐の中で操業しているようなものであり、長時間の被ばくの状況にあったということができるでしょう。

「1962 年　クリスマス島、ジョンストン島で のアメリカ、イギリス共同の水爆実験について」

室戸岬船員同志会

※水爆実験区域の説明については省略

〈出航前の注意〉

（1） 実験水域付近を航行し、操業する漁船は、その予定を関係官庁に通告すること。

（2） 爆発の日時、場所その他を知らせる無線電報を受けられるように準備すること。

（3） 放射能の強さを図る為、サーベイメーター、ポケット線量計を整備し、危険予知のため、実験場付近に近づく場合は甲板上の全放射能を図れるようにする。

〈出航後の注意〉

（1） 爆心地に近いところの放射性降下物（局所降灰）は大部分大きな粒子で強い放射能を持ち、数時間から一時間単位の間に落ちる。灰の落ちる範囲は爆弾の種類、爆発の高さによって違うが、ミサイル迎撃ミサイル（水爆弾頭）の実験が主なようだから高度は高いものと思われる。そうすると降灰も広い範囲に及ぶものとみられる。

（2） 局所降灰による危険性は主に体外照射で、爆発後数日から数週間にわたり人体に大きな障害を及ぼす。

（3） 降下物（放射能灰）は風下に一日数百キロ広がる。それと、直角の方向には数十キロ位しか広がらない。だから放射能雲の伸びる方向を肉眼、通報等で判断し風下と直角の方向に退避すること。

（4） 実験後、降り始めの雨には強い放射能があるから、降り始めの雨で体を洗うことは極力避ける。

（5） 万一、放射能灰が降り注ぎ、身体、漁獲物、船体などが汚染したとみられる場合は海水で充分に洗うこと。体は真水で流し洗いすること

（6） 漁獲物、積載物にはビニールなどのおおいをすること

（7） 実験水域付近で操業した漁船に対しては、関係官庁が入港場所を指定する事がある。そのときは指示に従わねばならない。

（8） 洋上で身体、その他に異常があった場合は、その程度に関わらず同志会に報告していただきたい。

※「遠洋」№81（1962.4.1）

室戸岬港をめぐるフィールドワークをおこないました

1 月 19 日に室戸岬港周辺をめぐるフィールドワークを行いました。参加者は高知市内から 10 人を加え 19 人の参加がありました。

その中には、元船員さんが二人、元県の職員、元「県かつ連」の職員も参加してくれ、当時の話をしていただきました。元県職員の方と、元県かつ連の職員の方はかつて一緒に仕事をされたこともあるようで、久々の邂逅を懐かしんでいました。

室戸岬は遠洋漁業の発展とともに港の拡張整備が行われています。しかし一方で、アジア太平洋戦争ではほとんどの遠洋漁船が徴用されるなど大きな犠牲を被りました。そして戦後の復興の努力の中太平洋での核実験により経済的にも身体的にも大きな打撃を受けました。特に身体的な犠牲についてはなんの補償も受けていません。核兵器がちらつかされている今、改めて当時のことを学んでいく必要があることを思いました。

◆次回フィールドワークは、3 月 15 日、13 時～15、時室津港周辺のフィールドワークを計画しています。

2 月 9 日(日)室戸「お茶会」のお知らせ

室戸の「お茶会」を 2 月 9 日(日)午前 10 時半～12 時、いつものように菜生市民館で開催します。今回のゲストは、元高知県職員の山中さん(安芸在住)です。山中さんは 2011 年の東北震災の時の福島原発が事故を起こした時に数年間、土木関係の派遣職員として支援にあたってきた方です。福島の状況などをじっくりとお話ししていただけます。ご近所やお友達もお誘いください。

ビキニデーin 高知 2025－核被災フォーラム室戸

5 月 10 日(土)11 日(日)　室戸社会福祉センター「やすらぎ」

▶5 月 10 日(土)13 時～16 時半
〇オープニング　室戸市民合唱団
〇記念講演　市田真理(第五福竜丸展示館学芸員)
〇元船員さんや関係者との交流など

▶5 月 11 日(日)9 時～12 時
〇分科会　①核被災の真相究明と補償を求める分科会
②地域から平和をつくっていく分科会